193　2025年 1月

カリエロ

CAGLIERO11

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

感謝を

カリエロ11と聖なる年2025年

あと数日で始まる2025年は、第29回総会の年となりますが、さまざまな出来事の記念の年でもあります。教皇フランシスコが宣布した聖年であることに加え、私たちサレジオ会、サレジオ家族にとって、3つの重要な出来事を記念する年となります。9歳の幼いヨハネ・ボスコが見た**夢の200周年**、**アルゼンチン**へのサレジオ会第一回宣教派遣の**150周年**、そしてイタリア国外における最初のサレジオ会修道院、**フランス**のニース支部開設150周年です。この3つの記念はすべて宣教的な性格を強く持っています：この短い記事では、第一回宣教派遣の記念に目を向けたいと思います。この150周年は、とても「パーソナル」な、関わる一人ひとりに結ばれた記念です。宣教師の召命の、また**幾千人もの献身的なサレジオ会員**の働きの実りであるからです。副総長ドン・ステファノ・マルトリオは述べています：「この宣教を記念する年は、神への信仰と、教育におけるサレジオ会の使命をもたらすため、この150年間に派遣されていったすべての人の顔を帯びています。神の忠実さは、このことが過去のことではなく、私たちの会の永続的なあり方であることを保証してくれます。」

宣教派遣150周年のために選ばれた標語は、この特別な150年の遺産を記念する私たちが強調したいと願うものを表しています：感謝、再考、再発進。

感謝：宣教師の召命の賜物を神に感謝します。この賜物のおかげで、今日、ドン・ボスコの子らとドン・ボスコの家族は、137か国で、貧しい人々、見捨てられた青少年に奉仕しています。

再考：記念の年は、サレジオの宣教を振り返り、新しい宣教論的考察に導く新たな挑戦や視点に照らし、刷新されたビジョンを発展させるのにふさわしい機会となるでしょう。

再発進：私たちには、ただ思い起こして感謝する栄光の歴史があるというだけではなく、これから作っていくすばらしい歴史があるのです！　宣教の情熱と、さらに多くの貧しい見捨てられた青少年のもとへ赴くという新たな熱意をもって、私たちは未来に目を向けます。

さらに今年、カリエロ11は、宣教の記念の年とその3つのキーワードに、より重点的に目を向けたいと思います。特に、毎月の**宣教の祈りの意向**は、特定の国ではなく、サレジオ家族の中のグループや運動に目を向けます。2025年の最初の月は、**感謝をささげたい**と思います。特に、教育と教えの恵みを感謝し、青少年司牧担当者のために祈ります。

聖年おめでとうございます。宣教の年、おめでとうございます！

宣教部門　パヴェウ・ゼニシェク神父, SDB、マルコ・フルガロ

友人の皆さん、

人間は - 他の種と異なり - 成長し人生を自ら歩むようになるまでかなりの時間を必要とします。母乳で養われるだけでなく、愛する人々の世話による、また暮らす環境から来るいのちの血に養われる必要があります。私たちは皆一人ひとり、家族、そして社会によって形づくられます。私たちは我が家のパンを食べ、同時に、同じように大切なこととして、文化の差し出す食物を食べます。その文化のうちに、私たちは初めてこの世の光を目にします。この漸進的な成長のプロセスが教育なのです。教育すること、また自らを教育することは人権です。教会は、最初から自らを「母、教師」と捉えていました。したがって、福音から来る貢献を差し出すことによって、人類の成長に決定的に貢献します。次のように言うことは、間違いでもなく、ましてや教義を押しつけることでもありません。宣教の働きは教育の活動であり、良い知らせを告げる相手である人々の教育に、さまざまな形で貢献するのだと。

**ローマ　教皇庁立サレジオ大学
教育学部 講師
オスカル＝エミリオ・
ロザーノ・リオス神父, SDB**

振り返りと分かち合いのために

- **サレジオ会宣教派遣150周年の記念は、私にとってどのような意味があるだろうか？**
- **どの宣教師から私はインスピレーションをもらっているだろうか？　それはどのように、またなぜ？**

Cagliero 11（カリエロ11）の全バックナンバー：http://salesians.jp/library/cariero

人の全人的育成 - コンゴの最初の宣教師たちが心がけたこと

ジェリー神父様、神父様の召命の歩みは、コンゴのサレジオ会宣教師の働きにどれほど影響を受けたと感じていますか？

コンゴの教会の歴史を見ると、この地域のキリスト教は、もちろん神の賜物ですが、第一に最初の宣教師たちの司牧活動の実りだとわかります。私の召命は、コンゴ・ブラッザヴィルのポアントノアールで私たちが幸いにも出会うことのできた宣教師たちの、親しみ深さ、交流、支えのおかげで花開きました。信仰の分かち合いのグループ、またユースセンターのアニメーターとしての仕事で、そして今、サレジオ会司祭として、私は自分が宣教師の養成と指導の実りだと言えると思います。今日の若者のために良い模範になることは、私自身にかかっています。

コンゴの人々の教育と育成に果たした最初の宣教師たちの最も大きな貢献は何でしょうか？

私たちの準管区を構成するコンゴ民主共和国であれ、コンゴ・ブラッザヴィルであれ、最初の宣教師たちによる最も大きな貢献は、私の考えでは、宣教師たちが人の全人的育成に配慮したことです。例えば、最初の宣教拠点がコンゴ・ブラッザヴィルに開設された当初でさえ、カテキズムの教室と学校教室が並行して開かれ、小さな診療所も伴っていたことに私たちは気づかずにはいませんでした。宣教と教育が一つのコインの裏表であると、最初の宣教師たちは知っていたのです。宣教師たちの働きと献身を通して、福音宣教と人間的成長は双子の姉妹なのだと、私は学びました。

現在、アフリカ・コンゴ・コンゴ準管区ACCは、多くの新たなサレジオ会員の召命という恵みを受けています。海外から新たに宣教師を受け入れることは皆さんにとって意味があるのでしょうか？

私自身、ある程度、多様な文化的背景の産物です。事実、私は、幸いにも多文化的環境の中で学び、召命を育むことができました。異なる国籍の人が集まり、すばらしい養成の時は豊かなものになりました。したがって、私たちの準管区の召命は成長していますが、外から新しい宣教師を迎えることは祝福なのだと言うことができます。宣教師たちはその文化によって、そのキリスト教的、サレジオ的伝統によって、この準管区を豊かにしてくれます。自らを閉ざし宣教師を受け入れない管区は、恵みに対し、もしかすると私たちの創立者の精神に対してさえ、扉を閉ざすことになります。この初期の宣教派遣がなかったなら、私たちの修道会は今日、どのようになっていたでしょう？私としては、画一性はカリスマを貧弱にし、多様性は豊かにすると、確信しています。

ジェリー・マツウンブ・マビアラ神父, SDB

私は**コンゴ・ブラッザヴィル**のポアントノアール出身です。初期養成と神学の勉強（2003-2014年）の後、支部青少年司牧コーディネーター、サレジオ会の学校施設「聖ドメニコ・サヴィオ」の校長を務めました。その後、**ポアントノアール**大司教区の青少年担当司祭として働きました。**ローマ**（UPS）で司牧神学を学んだ後、2021年からACCの管区評議員、**管区青少年司牧担当者**を務めています。

フォーラム

宣教師派遣、ドン・ボスコからドン・アルティメまで

総長	期間	宣教師の数	総長	期間	宣教師の数
ドン・ボスコ	1875-1888	153	ドン・リッチェリ	1965-1977	740
ドン・ルア	1888-1910	1,528	ドン・ヴィガノ	1977-1995	870
ドン・アルベラ	1910-1921	501	ドン・ベッキ	1996-2002	196
ドン・リナルディ	1922-1931	1,984	ドン・チャーベス	2002-2014	355
ドン・リカルドーネ	1932-1951	2,665	ドン・フェルナンデス・A	2014-2024	253
ドン・ジジョッティ	1952-1965	1,455	合計	1888-1910	10,700

1月 サレジオ宣教の祈りの意向

感謝 > 教育

管区青少年司牧担当者のために

サレジオ会の意向

今日の、そしてこれまでの宣教師たちのために祈りましょう：
多くの青少年の育成に果たしてきた宣教師の教育的貢献に感謝しましょう。

教皇フランシスコの祈りの意向 >教育の権利のために